

松沢地区ワイン用ぶどう団地



広がる耕作放棄地

山形の南東部に位置する上山市松沢地区は、43 haの広大な農地を持つ中山間地である。この地区は稲作と果樹栽培が盛んで、「水はけが良い豊かな土壌」「昼夜の寒暖差がある」「降水量が少ない」等、ぶどうの栽培に適した土地である。

松沢地区ではこのような有益な土地を持ちながらも、担い手の減少や農家の高齢化等も重なり、耕作放棄地が発生してきている状況であった。

ワイン用ぶどう団地化計画

「この耕作放棄地を何とかしたい。」その思いで市を主体として立ち上がった計画が「ワイン用ぶどう団地化計画」だ。

この計画は耕作放棄地の整備を行い、ワイン用ぶどうを求める新規参入者を地区に取り込み、地区の新たな農業振興・農地の維持を図る事を目的としたものである。

取組みは県営農地整備事業等を活用し、平成30年から実施し、令和2年までに農地の整備を完了している。

令和6年現在、県内外の4法人、1個人が担い手として参入し、令和11年にワイン販売額1億円を目指してワイン用ぶどうの栽培を行っている。

今回は、この法人の1つである、株式会社南東北サンシャインファームにインタビューを行った。

耕作放棄地解消までの流れ



整備後



整備中



整備前

担い手の声

○松沢地区ぶどう団地への参入のきっかけは？

株式会社南東北サンシャインファームは「地域農業の発展のため東北の農業を守り、耕作放棄地を再生することで、地域農業の活性化に繋がり、若手農業者の増加に結び付く元気な農業」に意義を見出しており、当時、上山市がワイン用ぶどうの生産に力を入れていたこともあり参入しました。



株式会社南東北
サンシャインファーム
海藤 純 課長

○栽培しているワイン用ぶどうの品種は？

令和2年より、3品種（白ワイン用のシャルドネ、赤ワイン用のカベルネソーヴィニヨン、メルロー）を栽培しています。今年は3品種で収量2.1tの目標に対し、3t収量を見込んでいます。

○栽培する上での工夫は？

ロボット草刈機の導入や、防除のための捕虫器等機械を使った省力化への取り組みをしています。

○今後の抱負

松沢地区がある上山市はぶどうの栽培に適した気候・環境（水はけが良い、昼夜の寒暖差がある、風とおしが良い等）ですが、今年度は猛暑のため、コガネムシの大量発生による葉の食害や例年9月末の収穫時期が約1か月早まる等大きな影響が出ました。今後はさらに収量を増やすとともに、品質を良くすることを目標にしていきたいです。また、地域の方々に営農の良い見本として見せていき、今から農業をやってきたいという人を育てていきたいです。

農福連携への取り組み

参加法人の一つである「株式会社ことある」（本社：栃木県）では、地元上山市の社会福祉法人「こまぐさの里」と連携して、ぶどうの収穫作業等栽培に携わってもらう取り組みも進めている。



令和5年度の収穫状況

ワインをご賞味あれ！

山形ワインカーヴ

場所のかみのやま温泉駅西口すぐ。松沢地区でとれたぶどうを使ったワインを飲むことができる。



山形ワインバル

平成26年にスタートした「やまがたワインバル」。令和7年も5月10日（土）～11日（日）の2日間開催予定。

